平成１４年度学長特別研究　研究成果報告書

現代イタリア演劇の研究

研究者氏名（代表者名）：

文化政策学部国際文化学科教授　高田和文

共同研究者：

文化政策学部芸術文化学科教授　扇田昭彦

文化政策学部芸術文化学科教授　伊藤裕夫

１．研究の目的

本研究事業の主たる目的は、前年度の学長特別研究事業「現代イタリア演劇の研究」に引き続き、1997 年にノーベル文学賞を受賞したイタリアの現代劇作家ダリオ・フォーの戯曲を本学において翻訳上演し、実際の舞台上演を通して本学学生及び広く地域の一般市民にその魅力を知ってもらうことにあった。ノーベル賞作家とはいえ、フォーの作品は必ずしも日本ではまだ一般に知られているとは言い難い。演劇文化の紹介や普及においては、活字メディア等による情報提供も必要だが、生の舞台を通して直接作品に触れる機会を作るほうがはるかに効果的である。

本研究事業のもう１つの目的は、イタリアを代表する劇作家でありながら日本ではまだ上演される機会の少ないフォーの作品を本学で上演することにより、本学の研究活動の先進性を示し、同時に舞台公演やイベントを活用した本学の教育の特徴を広く地域の人々に理解してもらうことにあった。前年の事業ではフォーの演劇活動の初期の１幕喜劇を取り上げたが、今回は彼の政治劇の代表作とされる『アナーキストの事故死』を上演することとした。この舞台は東京・両国のシアターＸ（カイ）で制作され、上演されたものであるが、今回が本邦初演であった。このような実験的な試みを行なうことによって、イタリア演劇及び演劇全般に対する本学学生の関心を深め、同時に地域の人々に対して本学の存在意義をアピールできるものと考えた。

さらに、本研究事業では舞台上演に先立ってミラノ在住の演出家井田邦明氏を講師に迎えて演技ワークショップを開催することとした。前回は上演の前に講堂で行なう公開ワークショップという形を取ったが、今回は浜松地域で演劇活動の盛んな高校、及び地元で活動する劇団に呼びかけ、演劇部の学生と俳優経験者を対象に身体トレーニングを主とした本格的なワークショップを行なうこととした。この催しにより、本学の研究と地域の文化活動の間に交流の場を設け、将来の相互協力あるいは共同事業に向けて最初の足がかりを作ろうと試みた。

２．実施方法、実施の概要

（１）舞台公演

舞台公演は以下の要領で行なわれ、本学学生及び一般市民に無料で公開された。また、上演に先立って高田がダリオ・フォーとその作品について簡単な解説を行なった。当日は本学学生、一般市民を合わせて３００名近くの来場者があり、盛況のうちに幕を閉じた。また、本公演については、中日新聞東海本社の後援名義を得た。

日時：２００２年１０月５日（土）
開場　１２：３０　開演　１３：００　終演　１６：００（予定）
場所：静岡文化芸術大学講堂
入場無料

上演作品の概要は次の通りである。

『アナーキストの事故死』
作　：ダリオ・フォー
演出：井田邦明
訳　：高田和文
出演：有馬理恵、大西加代子、海峡ひろき、山上優、世樹まゆ子、伊沢弘
衣裳：加納豊美
制作：シアターX（カイ）
後援：中日新聞東海本社
協力：シアターX（カイ）、ＣＴＲＦ（フォー・ラーメ劇団）

なお、上演前に入場者に対し、あらすじと作品解説を載せた資料を配付した。その内容は以下の通りである。

○あらすじ
警察署の一室。一人の容疑者が警部の尋問を受けている。彼は変装マニアで、さまざまな人物になりすまして詐欺を働いたという。尋問が終わって警部が出て行くと、変装狂はこっそり誰もいない部屋に戻って来て、引き出しの書類をかき回し、あれこれ情報を得る。また、かかってきた電話に出て警部になりすまし、適当に相づちを打って事情を聞き出す。次いで署内の別の部屋。変装狂はある事件の再調査のためにやって来た裁判官に扮している。つまり、爆弾事件の容疑者として逮捕され尋問を受けていたアナーキストが、警察署の窓から転落して不審な死を遂げた事件である。警察発表では自殺とのことだったが、裁判官になりすました変装狂が当事者の警部と署長を問い詰めてゆくと、次々に矛盾点が現れる。

署長と警部はなんとか話を取り繕おうとするが、結局、アナーキストの死は自殺でも事故でもなく、警察による意図的殺害の疑いが強まってくる。そこへ、この事件を取材している女性ジャーナリストが訪れる。変装狂は今度は科学捜査局長に扮し、署長と警部に警察側の立場を守ることを約束する。しかし、女性ジャーナリストの鋭い質問と変装狂の逆説的な論理によって、警察側の主張の矛盾がますます露呈、さらには軍や政府など国家が事件に関与していた事実が明らかになる。

○作品解説
『アナーキストの事故死』（1970 年初演）は、フォーが積極的にイタリアの政治問題に関わり、尖鋭的な活動を行なっていた時期の代表作である。当時のイタリアは、69 年秋に頂点に達した労働闘争とそれに呼応した学生運動が徐々に失速する一方、極左ないし極右のテロの脅威が現実になりつつあった騒然とした時代だった。この作品の背景にあるのは、69 年 12 月にミラノで起こったフォンターナ広場事件（イタリア農業銀行爆破事件）と、容疑者として逮捕された極

左活動家ピネッリのミラノ警察署内での死亡事件である。16 名もの死者を出したフォンターナ広場事件は、その後 70 年代の相次ぐ爆弾テロ事件の発端となったが、事件当初、警察は一連の爆弾テロを左翼の犯行と断定、大量の活動家を検挙した。しかし、その後の検証でむしろ極右が直接の実行犯であり、背後で軍や政府が関与していた疑いが生じた。また、ピネッリの死も当初は自殺と発表されたが、調査の結果警察による意図的殺害の疑惑が強まった。フォーは事件発生後わずか１年にしてその政治的・歴史的意味を問い、政府・警察の姿勢に対して批判的メッセージを発したわけだが、事件の真相が 30 年以上を経てなお解明されておらず、現在も裁判が継続中であることを考えると、彼の先見性にあらためて驚かされる。

ただ、フォーのこの作品は単に左翼側の主張を訴えるだけのプロパガンダ劇ではない。警察署内に忍び込んだ変装マニアを主人公とすることで、変装やギャグ、パロディーといった仕掛けをふんだんに盛り込み、明確な政治的主題を持ちながらも優れた喜劇に仕上がっている。この作品が世界各国で翻訳上演されて好評を博しているのも、単なる政治劇の枠を超えた質の高い喜劇となっているからだろう。

なお、今回の翻訳上演はこの作品の本邦初演となる。

さらに、広報用のちらしには、作者と演出家のプロフィールを記した。その内容は以下の通りである。

ダリオ・フォー　Dario Fo
１９９７年ノーベル文学賞を受賞。自ら喜劇俳優として舞台に立つ一方、劇作、演出、衣装、美術などジャンルを超えて多彩な創造活動を展開。伝統的な喜劇の文法を踏まえながら現代的なテーマを取り上げた作品は、大衆の絶大な人気を集めるとともに、批評家の論議を巻き起こした。新作の舞台は今なおいつも満員となる。

井田邦明　いだ　くにあき
安部公房スタジオに所属。１９７３年に渡仏、ルコック演劇学校に入学。卒業後、ミラノで劇場と劇団を主宰し、９０年まで芸術監督を務める。現在は、ミラノ市立パオロ・グラッシ演劇学校で教えるほか、自ら演劇学校を設立し、校長を務める。これまでグロトフスキやバルバなどと共同して演劇活動を行う。三島由紀夫や安部公房の作品をイタリアに紹介する一方、狂言やコンメンディア・デッラルテのスタイルを超えた「人間喜劇」の創造をめざす。

（２）ワークショップ

舞台上演の演出を担当した井田邦明氏による演技ワークショップは以下の要領で行なわれた。

日時：２００２年１０月４日（金）

１４：３０～１７：００（学生対象）
１７：３０～２０：００（俳優対象）

場所：静岡文化芸術大学体育館

ワークショップには、学生対象の部に２４名、俳優対象の部に２３名、計４７名の参加者があった。学生の部には本学学生以外に、西遠女子学園など地元高校の演劇部の学生が多数参加した。また、俳優対象の部には劇団砂喰社、遠州水滸伝など地元劇団のメンバーに加えて、浜松のブラジル人劇団の主宰者ジルソン・サントス氏も参加した。会場には本学体育館を使用し、広いスペースを利用して本格的な演技と表現のための種々の身体トレーニングを行なった。ミラノで演劇学校を主宰する井田氏が独自に開発した俳優養成のためのメソッドによるもので、参加者にとっては新鮮かつ刺激的な内容であった。ワークショップは学生の部と俳優対象の部それぞれ２時間半ずつ、計５時間にわたって行われた。

３．得られた成果

舞台上演の当日は、本学学生のみならず地域の多くの市民が来場し、たいへん好評のうちに幕を閉じた。前年度に引き続き、このような実験的な作品を本学で上演することにより、本学学生のイタリア演劇への関心を高めるとともに、幅広い市民にイタリア演劇の魅力を伝えることができた。同時に、本学における研究活動の具体的な内容や、公演やイベントを活用した本学の教育の特徴について一般市民に知ってもらうことができた。そのことは、来場者へのアンケートの結果からも裏付けられた。また、公演の模様は地元の複数の新聞で取り上げられ、当日来場できなかった市民にも広く知られるところとなった。さらに、上演をビデオで録画し、編集することにより授業及び学生向けの貴重な映像資料を作成することができた。

ワークショップには演劇活動の盛んな浜松地域の高校、ブラジル人の劇団を含め地元で活動するほとんどの劇団から参加者があり、本学の研究と地域の文化活動の間の貴重な相互交流の場となった。なお、参加者からは好意的意見とともにこの種の催しを継続的に行なって欲しいとの要望が多数寄せられた。

添付資料
１）公演ちらし
２）関連新聞記事

ダリオ・フォー
Dario Fo

1997年ノーベル文学賞を受賞。自ら喜劇俳優として舞台に立つ一方、劇作、演出、衣装、美術などジャンルを超えて多彩な創造活動を展開。伝統的な喜劇の文法を踏まえながら現代的なテーマを取り上げた作品は、大衆の絶大な人気を集めるとともに、批評家の論議を巻き起こした。新作の舞台は今なおいつも満員となる。2001年秋より、演劇活動50周年を記念してイタリア全国を巡演、大好評を博している。

井田　邦明
Kuniaki Ida

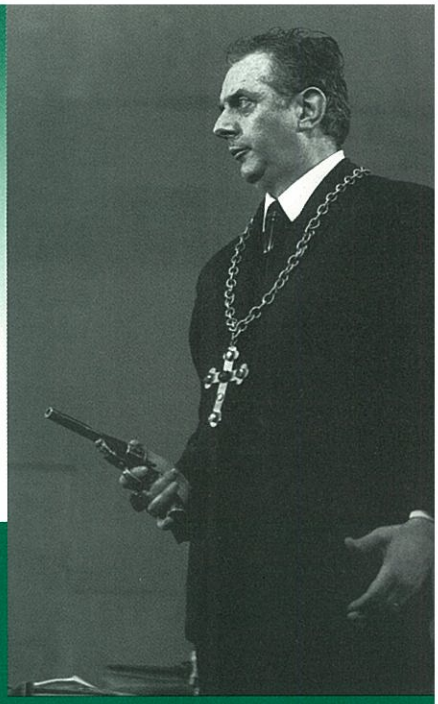
安部公房スタジオに所属。1973年に渡仏、ルコック演劇学校に入学。卒業後、ミラノで劇場と劇団を主宰し、90年まで芸術監督を務める。現在は、ミラノ市立パオロ・グラッシ演劇学校で教えるほか、自ら演劇学校を設立し、校長を務める。これまでグロトフスキやバルバなどと共同して演劇活動を行う。三島由紀夫や安部公房の作品をイタリアに紹介する一方、狂言やコンメディア・デッラルタのスタイルを超えた「人間喜劇」の創造を目指す。

井田邦明演劇ワークショップ

今回の作品を演出するミラノ在住の演出家井田邦明氏が、将来俳優を目指す学生およびすでに劇団などで活動している俳優を対象に演劇ワークショップを行います。

日時：**10月4日(金)**
14:30～17:00(学生対象)
17:30～20:00(俳優対象)

場所：**静岡文化芸術大学体育館**



現代イタリア演劇の研究

このたび、静岡文化芸術大学教員3名(文化政策学部教授高田和文、扇田昭彦、伊藤裕夫)は、昨年に引き続き学内研究事業の1つとして現代イタリア演劇の上演を行うことになりました。ダリオ・フォーは1997年度のノーベル文学賞受賞劇作家であり、その代表作の1つ『アナーキストの事故死』をミラノ在住の演出家井田邦明氏の演出により上演します。なお、舞台上演に先立ち、ダリオ・フォーとその作品について簡単な解説をします。演劇愛好者のみならず、幅広い層の方々のご来場をお待ちしています。

ダリオ・フォーのびっくり箱2002

『アナーキストの事故死』を演じるダリオ・フォー

『アナーキストの事故死』

作：ダリオ・フォー　　演出：井田　邦明
訳：高田　和文　　製作：シアターX(カイ)

日時

2002年10月5日(土)
開場13:30　開演14:00

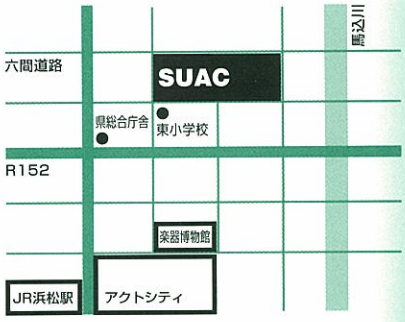
場所

静岡文化芸術大学講堂(地図参照)

入場無料
(予約等は必要ありませんので、当日会場にお越しください)

主催：高田和文、扇田昭彦、伊藤裕夫(静岡文化芸術大学教員)
後援：中日新聞東海本社
協力：シアターX(カイ)、CTFR(フォー・ラーメ劇団)
なお、この事業は静岡文化芸術大学学長特別研究費により行われるものです。

お問い合わせ：静岡文化芸術大学　高田研究室
TEL/FAX 053−457−6152
E-mail ktakada@suac.ac.jp



公共交通機関を御利用ください。
お車の場合は市営駐車場を御利用ください。

静岡新聞 2002年10月8日

激しい身体表現

イタリア劇の魅力紹介

静岡文芸大

浜松市野口町の静岡文化芸術大で五日、イタリア劇公演「ダリオ・フォーのびっくり箱2002」が開かれた。イタリアのノーベル賞作家ダリオ・フォー氏の代表作「アナーキストの事故死」を上演し、激しい身体表現とせりふ回しを織り交ぜた現代イタリア劇の魅力を紹介した。

上演作は一九七〇年の初演で、実際にあった爆弾テロ事件がモチーフ。容疑者となった左翼運動家の不可解な死を巡る、警察や軍、政府の主張の矛盾をついた物語。

イタリア文化史研究の高田和文教授が邦訳し、オーディションで選ばれた俳優六人が二時間にわたり、皮肉とユーモアたっぷりに演じた。

公演は高田教授、同大文化政策学部の扇田昭彦、伊藤裕夫の三教授が企画した。演出はミラノ在住の演出家井田邦明氏が担当した。

派手なパフォーマンスで観客を楽しませたイタリア劇公演＝浜松市野口町の静岡文化芸術大

中日新聞 2002年10月6日

イタリア喜劇に喝さい

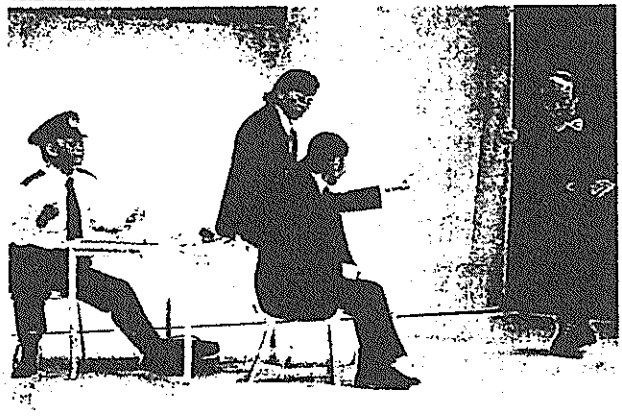
浜松でファン フォー氏の代表作堪能

イタリアのノーベル文学賞劇作家ダリオ・フォー氏の代表的な喜劇を上演する舞台「ダリオ・フォーのびっくり箱2002―現代イタリア演劇の研究」（中日新聞東海本社後援）が五日、浜松市野口町の静岡文化芸術大学で行われ、多くの学生や演劇ファンらを楽しませた。

同大文化政策学部の高田和文教授、扇田昭彦教授、伊藤裕夫教授による学内研究事業の一環で、昨年に続いて二度目。

今回の演目は「アナーキストの事故死」。一九六九（昭和四十四）年のイタリアでの銀行爆破事件で、容疑者とされた極左活動家が警察署内で謎の死を遂げた実話が題材。死亡をめぐり警察側による殺害の疑いが浮上、現在も真相は未解明だという。政治色の強い題材ながら、舞台では変装マニアの主人公が警察側を追及する喜劇に仕上げられている。

今回は高田教授が邦訳、演出家の井田邦明氏が演出し、オーディションで選ばれた俳優六人が出演した。警部や裁判官に次々となりすます主人公と警察側の攻防がユーモアたっぷりに演じられ盛んな拍手が送られた。



ダリオ・フォー氏の代表作を上演した舞台「アナーキストの事故死」＝浜松市野口町の静岡文化芸術大学で

中日新聞 2002年10月3日

伊のノーベル賞劇作家の作品紹介

5日・静岡文化芸大

イタリアのノーベル文学賞劇作家で俳優のダリオ・フォー氏の作品を紹介する舞台「ダリオ・フォーのびっくり箱2002―現代イタリア演劇の研究」（中日新聞東海本社後援）が五日、浜松市野口町の静岡文化芸術大学で上演される。入場無料。

舞台は同大の学内研究事業の一環で、同大文化政策学部の高田和文教授、扇田昭彦教授、伊藤裕夫教授の三氏が主催。上演されるのは、一九六九（昭和四十四）年にイタリアで実際に起きた銀行爆破事件を取り上げた「アナーキストの事故死」（七〇年初演）で、当時の不安定な政情を題材にしながらも優れた喜劇に仕上げたフォー氏の代表作の一つ。

上演に先立ち、高田教授がフォー氏とその作品について簡単に解説する。また四日には演出家の井田邦明氏が俳優を目指す学生と劇団員それぞれを対象に演劇ワークショップを同大で行う。

上演当日は午後一時三十分開場、同二時開演。予約は不要。ワークショップは学生が四日午後二時三十分から、劇団員は同午後五時三十分からで各定員は約三十人。要予約。上演、ワークショップともに問い合わせは同大高田研究室＝電053(457)6152＝へ。

中日新聞 2002年10月4日

ステージ

◇ダリオ・フォーのびっくり箱2002「アナーキストの事故死」 5日後2、浜松市野口町の静岡文化芸術大学講堂。本社後援。ノーベル賞作家ダリオ・フォー作の現代イタリア演劇を上演。無料。☎同大学の高田研究室053（457）6152。

毎日新聞 2002年10月4日
（静岡版）

◇ダリオ・フォーのびっくり箱2002 5日14時、浜松市野口町、静岡文芸大（053・457・6152）無料。直接会場へ。

浜松百撰 2002年10月号

ノーベル賞受賞のダリオ・フォーが演じる〈アナーキストの事故死〉。

5年前に演劇人として初めてノーベル文学賞を受賞したダリオ・フォー。「イタリアが生んだ万能の演劇人」と称され、演じるのみならず演出、舞台美術、衣装から音楽、振り付けに至るまであらゆる分野をこなす彼の〈アナーキストの死〉が、10月5日、14時～、静岡文化芸術大学講堂で。入場無料。当日会場へどうぞ。

街ネタ情報局